

...ボランティアがつくるニュースレター...

トラストネットワーク

発行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5

Tel: 03-6379-1620 Fax: 03-6379-4233

<https://www.setagayatm.or.jp/>



No. 89 2020年 12月

成城三丁目/四丁目

小さな森オープンガーデン(11月15日)

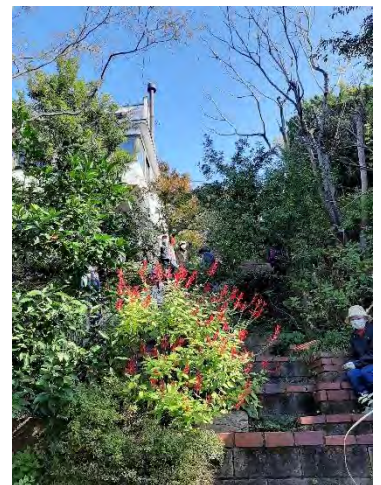
最初に見学した成城三丁目のガーデンはアプローチから真正面に富士山が見え、国分寺崖線を存分に体感できる庭。レンガの階段と様々な木や花が自然と共存している心地よさとともに高揚感を与えてくれます。

自然湧水の池があり虫や鳥たち、蝶やミツバチなども集まるとのこと。オーナーは地球環境への関心も深く落ち葉だまりで腐葉土を作るなど“小さな森活動は温暖化抑制にも役立つ”と話されていました。15m以上ありそんな傾斜地のイタリア風ガーデンをステキに維持さ



れるオーナーご夫妻の密かなご努力を思い、忘れられないガーデンとなりました。

次の成城四丁目のガーデンは多彩な趣味をもつオーナーが庭に自力で池を掘り水を引きホームセンターで購入した山野草などを植えられた野趣あ



ふれる庭、この日もホトトギスが咲き小さな水中生物が観られました。

苔や石にもこだわり、多肉植物やぶどう棚作り、庭にやってくる鳥の困った話など盛り沢山の話題で見学者を沸かせたオーナーでした。

秋晴れの成城で興味深い二つのガーデンとそのオーナーに出会い心はずむ一日でした。



89号の目次

成城三/四丁目小さな森 オープンガーデン.....	1
いらか道市民緑地ボランティア活動に参加して.....	2
用賀プロムナードと小倉百人一首.....	4
世田谷名木百選 パネル展示会.....	6
秋のバードウォッチング.....	7
かわらばん.....	8

いらか道市民緑地（上用賀五丁目 12）

ボランティア活動に参加して

10月21日（水）、いらか道・市民緑地の維持管理を担当しているボランティアグループの活動に参加しました。

当日は好天に恵まれ、9時半に現地に着いたのですが、2～3人の方がもう、環状八号線の歩道の落葉掃きなどをしていました。今日は、ボランティアの方が何人ぐらい集まるのですかと聞くと、7人か8人でしょうとのことでした。

そして10時に、道具収納小屋の前の広場に全員が集集合すると、なんと、世田谷トラストまちづくりの職員を含めると、17人が集合しました。ボランティア団体の作業リーダーの「今日は、落葉掃き、成長の早い樹の徒長枝の剪定等を中心に作業を行いたいと思います。」という話や、会員の簡単な紹介の後、解散し作業開始。

道具小屋は、比較的小さな道具を入れる小屋と大きな道具を入れる小屋の2つがあり、かなり豊富な道具が広場に揃えられていました。



「まあ、簡単な仕事でもするか。」と、軽い気持ちで箒を持ち、落葉の一番あると思われる市民緑地の中心の辺りの場所に行きました。ところが、箒で掃いてビックリ。落葉が、ドバっと動きました。えっ、こんなに落葉が重なっているの、落葉の下が見えないものね。おまけに、落葉に隠れていた破裂

した柿の実がベツトリと竹箒にまといつく。そして、マンリョウ等の小さな木や下草の間に潜り込んだ落葉が抵抗して、なかなか集まらない。

日本スイセンなどが芽を出していないか気を配りながらの落葉掃きは大変で、落葉掃きの場所を間違えたと思っても、逃げるわけにはゆきません。

10月の下旬で、こんなに柿の葉が落ちるのかなと思い、見上げるとそこに枝を広げている柿の木には、葉がついていませんでした。



30分も作業を続けたら、汗をかき、上着を脱ぎました。ついでに、他の人達の仕事ぶりを拝見。2m弱の高さの五葉マツをいとおしげに手入れをしている人、花壇を丹念に手入れしている人、雑草を駆除している人、枯れ木を掘り起こしている人、藪退治をしている人、落葉を掃く人、もちろん樹木の徒長枝を剪定している人も。

ああ、いいなー。ここでは、自分の好きな作業をすればいいんだ。樹木の種類が多く、花壇等もあるため、全員が同じ仕事をする必要がないのです。隣で仕事をする人から道具を借り、談笑しながら、和気あいあいと異なる仕事をしていました。

11時になると、休憩。全員が道具小屋の前の広場の横にあるテーブルに集まり、腰を下ろして、収穫したブドウとミカンを頂きながら、おしゃべり。皆でおしゃべり、楽しいですね。お孫さんの話などに花を咲かせたら、日ごろのストレスも雲散霧消。ボランティア活動には、このようなおしゃべりが大事だと思いました。そして、11時25分から作業を再開しました。



(一財)世田谷トラストまちづくりの資料によると、この緑地の面積は1,146㎡。もとは庭木の樹木畑で、花や緑陰、紅葉やこもれびなど、四季折々の風情が感じられ、カエデ、サルスベリ、ツツジなど、多くの馴染み深い樹木をボランティアが手入れをしています。用賀プロムナード(いらか道)が環状八号線に突き当たる場所の緑地で、ベンチなどもあり砧公園へ向かう途中の休息にも最適です、とあります。

緑地内には、カエデ、マツ、ウメ、サルスベリ、カキ、サカキ、スギ、ツツジ、サクラ、ナンテン、ミカン、ユズ、クチナシ等沢山の樹木が植えられています。一番多いのがカエデで、11月末から12月にかけて見頃を迎えるのかなと思います。そのころ、ぜひ寄りたいと思います。



砧公園は、広い敷地にゆったりと間隔を置いて樹木を植えています。こちらは樹木の数が多いので比較的密植です。それだけに、落ち着いた感じで過ごせます。ただ、残念なのはカキの木が多いのですが、密植のため、枝を頻繁に切らないといけなんでしょう、今年は、カキの実があまりなっていませんでした。

花壇の方もシュウメイギク、コリウス、ペコニア、キキョウ、キクなどが花をつけており、ユリやアヤメなども見られました。そして、ボランティアの方々が作成した、それらの花やセンリョウなどの花の写真と説明文が添えられていました。

11時50分に作業終了の声がかかり、今日の作業は終了。

皆で道具小屋の前に集まり、集めた落葉等の作業の後始末をし、作業で使ったスコップ等を洗って作業小屋に収納し、今日の作業はおしまい。

今日の感想は、ここではいろんな作業があり、自分の好きな作業に没頭できること。例えば、五葉マツの手入れをしていた女性の方は、最後まで五葉マツの手入れに専念していました。これならトラスト通信ボランティアを辞めて、こちらに転向しても良いなと思える楽しい一日でした。

【注1】 左図はいらか道市民緑地付近の地図を示します。付近には環八通りを隔てて砧公園と、バス停(砧公園緑地入口)があります。市民緑地への往来に、園01の路線バスが便利です。

【注2】 左図の市民緑地の脇に用賀プロムナード(いらか道)があり用賀駅に通じています。この道の路面に小倉百人一首の和歌が彫られるなど色々な物語があります。次ページ以下をご覧ください。

歌番号1が刻まれた歌は用賀駅前から始まり、いらか道を経て砧公園に面した環八通りへ出る所で歌番号100が刻まれた歌に出会います。数点の歌を紹介します。彫刻の写真も併せてご覧下さい。

1の作者、天智天皇（六二六～六七二）、大化改新で活躍した中大兄皇子として有名。歌番号2の作者持統天皇の父君に当たります。

参考文献 「一冊でわかる百人一首」 吉海直人監修 成美堂出版

1 秋の田の かりほの庵の とまをあらみ
我が衣手は露にぬれつつ

天智天皇

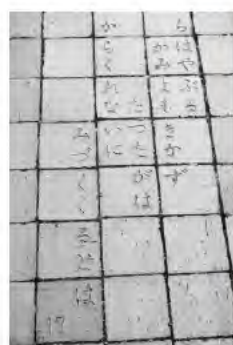
2 春過ぎて夏来にけらし白妙の
衣ほすてふ 天の香具山

持統天皇

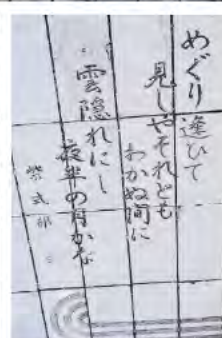
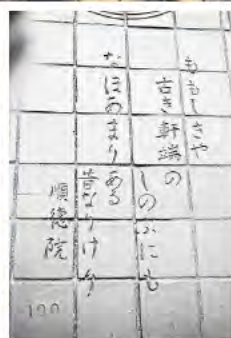
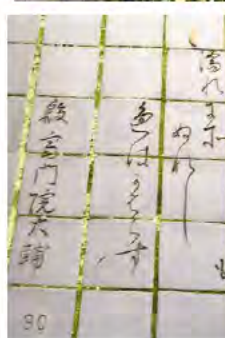
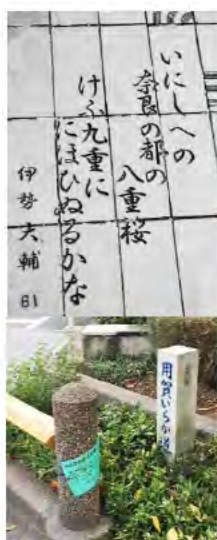
10 これやこの 行くも帰るも 別れては
知るも知らぬも 逢坂の関

蝉丸

17 ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川
から紅に 水くぐるとは
在原業平朝臣



百首の彫刻された歌にはいろいろな書式が採用されています。50番辺りまでは、すべてにひらがなが使われ、道路面のタイルの大きさもまちで、タイル1枚に4文字や1文字が刻まれています。10番辺りまでは交通量の多い地域の所為か、彫刻面が摩耗していて文字が薄くなり、非常に読みにくくなっています。また何点か修理工事後のようで、行方不明の歌があります。50番以降は漢字が多く使われ、彫も深く読みやすくなっています。さらに草書風で書かれた歌が所々に出て来ます。左図左下の草書の歌はその一例で、活字体での歌詞を次行に示します。「見せばやな雄島のあまの袖だにも濡れにぞ濡れし 色はかはらず」左図にはいろいろな書体を採り上げ、写真として掲載しました。



用賀プロムナード(いらか道)と小倉百人一首

これまで砧公園や世田谷美術館へ行くのに、マイカーあるいは二子玉川駅からのシャトルバスを利用していました。ところが最近電車を利用し、用賀駅から歩いて行くようになり思いがけなく用賀プロムナードを歩いていました。その名前は聞いていたのですが、改めてその眺望と風景に感嘆しました。さらに路面に小倉百人一首の和歌が刻まれているのに一層の驚きを感じました。ここに改めてこれらの由来と、実際にプロムナードを歩き和歌を詠んでみた感想などを写真と併せて紹介いたします。

用賀プロムナード(愛称 いらか道)

昭和61年砧公園内に美術館が建設され、最寄りの用賀駅からの道として用賀プロムナードが計画され、造成されました。

完成した姿は公園のような印象を受けますが、歩道と車道もかねていることが特徴です。カワラを敷き詰めた舗装やせせらぎを道筋に沿わせて整備し、並木部分には木陰や日向にベンチを設置して休憩場所をもうけたりして公園の雰囲気を出しています。昭和30年代、砧公園は9ホールのゴルフ場でした。園内には至る所にその面影が残っています。当時のプレーヤーはどのような風景を見ていたでしょうか。

風景資産としての用賀プロムナード

その地域に暮らす人々の心に共有され、みんなが誇りと愛着を保持している大切な風景を地域資産と位置づけ、これらを守り、育て、つくることを目的とした『世田谷風景づくり条例』があります。区ではこの条例に基づき、地域風景資産を選定しています。

平成14年度から3回の選定会を経て、現在86ヶ所が選ばれ、用

賀プロムナードもそのひとつです。設計は高名な「象設計集団」が担当され、この場所のデザインコンセプトは「みちを生活の場に戻す」だそうです。

小倉百人一首とのつながり

いらか道の路面に和歌が刻まれ、またそれが百人一首の歌だということとはよく知られています。しかしその理由は、はっきりしていませんでした。

最近、公園事務所の方から聞いたことですが、刻まれた歌の間隔が10メートルになっているそうです。百首の歌と10メートル、全部で1キロメートル、それぞれの歌の最後につけられた順番を示す数字、などを考えると、歌の番号でその位置が分かる立派な里程標です。それで百人一首に通じると思いました。

小倉百人一首とは

歌人藤原定家により編纂された歌集です。時代は文暦二年(1285年)、京都の嵯峨にある親族の中院山荘の障子(現在のふすま)を飾るために書かれた百枚の色紙がもとになったとされ、それを編纂した場所が京都の小倉山であったために小倉百人一首といわれています。選ばれた百首には、一番の天智天皇の歌から、百番の順徳院の歌まで、すべての歌に番号がつけられています。この歌番号の並び順は、おおむね古い歌人から新しい歌人の順となっています。



「世田谷名木百選」パネル展示会

コロナ禍で延期されていた世田谷名木百選のパネル展示会が北沢タウンホール、三軒茶屋キャロットタワーの生活工房と砧公園内の世田谷美術館で開催されました。

昭和 61 年に世田谷区が制定した 100 件の名木の中には倒木や枯死、樹形が変化したものもあり、平成 30 年から新たな名木百選の選定が行われていました。その結果、再選された 95 件の名木と区民からの応募があった 215 件から選んだ 55 件を合計した 150 件が新しい世田谷の名木に決まりました。

世田谷美術館での展示 (10/27～30) では、季節の花木・樹高や幹の太い順 (幹周り No.1 は玉川神社とつくりグス 761cm)・物語のある木 (都立園芸高校内の日米友好ハナミズキなど) といった様々な切り口でまとめられたパネルに、知っている名木を確認したり、沢山の人が熱心に見入っていました。個人宅や学校にあるためなかなか見られない名木もありますが、多くは見事な姿を四季折々に公園や街路で見ることができます。会場で配られていた名木百選の冊子とマップ (世田谷区のみどり政策課発行) を使って、世田谷の長い歴史と文化の中で育まれた名木がもつパワーや癒しを感じに新たな「世田谷名木百選」を訪ねてみたいなと思いました。

＊ 「世田谷名木百選」の冊子やマップは、区のまちづくりセンター、総合支所、区役所みどり政策課などでもらえます (無料)。

＊ ＊マップには各名木の位置や写真、「等々力溪谷の自然と野毛古墳群コース」他、名木を巡る 7 つのおすすめコースなども記載されています。



写真上 にぎわう世田谷美術館のパネル展示会

写真下 名木百選やマップ



世田谷美術館は緑豊かな環境の砧公園内にあり、園内 12 件の樹木が名木百選に選ばれています。その中の樹高の大きな 2 件を示します。

写真上 クヌギ
高さ：26.6m
美術館の近くに
あります。



写真下
シダレヤナギ
高さ：19.4m
園内「一の橋」の
傍にあります。

秋のバードウォッチングに参加して



10月24日(土)、二子玉川駅から二ヶ所で案内誘導があり集合地点の二子玉川公園のビジターセンターに向かいました。



秋の空は雲高く、風は高層ビルがいくつも建っているせいか強く感じられました。

9時15分頃から受付が始まり、検温を受けました。バギーに乗る子どもや杖をついての参加者もいます。50人くらいの参加者を5人ずつの班に分け全体で9班、その各班に野鳥ボランティアの方が2名ずつ加わり、9時半に兵庫島を目指して約1.5kmの観察活動に入りました。



河川敷を歩いていると鳥の声が聞こえてきたりします。同行のボランティアの方がそれらを

聞き分けて、鳥の名前を教えてくれ、目を凝らして探したりしています。鳥の好物だというセイバンモロコシという植物を知りました。**カワラバト**が伝書鳩の野生化したものだということも初めて知りました。

鳥の眼(視力)が人間の9倍もあり、上空から水中の獲物を見つけて急降下することが納得できました。運よくモズの鳴き声も聞けました。**カワウ**が二十数羽群れを成して飛んでいるのも初めて見るものでした。**カラス**と**チョウゲンボウ**が縄張り争いか追いかけてこの様子、海にいる**ミサゴ**がこの辺りにいるのは珍しいとのこと。多摩川の中州に**アオサギ**や**カワウ**が十数羽、羽を休めていました。その中に真っ白な**コサギ**が一羽混じっていたのは印象的でした。

11時半頃、兵庫島公園に到着し、解散となりました。陽射しもあり、いい気

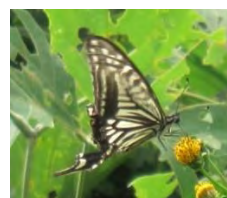


候で散歩する人、走る人、自転車に乗る人、



魚釣りの人、それぞれ色々な秋を楽しんでいるようでした。初めての野鳥観察会でした。

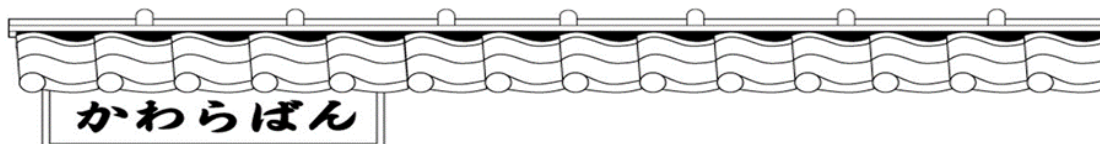
鳥だけでなく川原の草花や蝶など教えていただき、よい勉強をさせてもらい参加してよかったと思いました。



観察会で見られた野鳥 (50音順)

2020年10月24日 野鳥ボランティアの記録

アオサギ	オオバン	カルガモ
カワウ	カワラバト	カワラヒワ
キジバト	スズメ	セグロセキレイ
ダイサギ	チョウゲンボウ	トビ
ハクセキレイ	ハシブトガラス	ハシボソガラス
ヒヨドリ	ムクドリ	ミサゴ
モズ		



成城三丁目 こもれびの庭市民緑地

(成城三丁目 6-20)

ボランティア活動を体験して

11月16日(月) 気持ちの良い秋空の中、3本のヒマラヤスギがシンボルのこもれびの庭の定例活動に参加しました。ボランティアの方々が次々と集まって来て、10時からトラストの担当者によるオリエンテーションが始まり、除草、清掃、水やり、剪定等をこなしていきます。

ここは環境に配慮したエコガーデンを目指しているとのこと、庭の一角に三つに分けられたコンポストが瞬く間に一杯になります。はき集められた落葉や草花がいずれは腐葉土になり活用されていきます。

1時間もするときれいになった庭の入口やアーチ、木々にクリスマスのグッズが手分けして飾りつけられ、球根(チューリップ、アリウム、クロッカス等)も植え付けられました。どこから芽が顔を出すのか楽しみです。

片付けを終え12時終了となり、皆一言感想を述べて解散となりました。月1回の定例活動の他に皆さん自主活動で好きな時に足を運んでいるそうです。初めて参加の私は、増えすぎて困るという抜かれたヒメヒオウギズイセンを、わが家で育てたいと少し分けて頂きました。私には思い出の花なので根づいてくれたらうれしいです。



参加されたボランティア(10人余り)の方々は情報交換をしたり、和気あいあいを楽しそうに活動していたのが印象的でした。



いきものさんぽ

キキョウ

キキョウ科

6月～8月に
紫と白の花が
咲く多年草で
昔から人々に
愛される美しい
花です。



せたがやトラスト彩草会

編集後記 89号の記事取材、編集段階ではコロナ禍はさらに拡大し、これからの活動の見通しに不安を感じる状態です。やはりコロナの収束が第一で、「収束なければ活動は消滅だ」と感じます。

植物、動物、文化遺産等の保存にも影響が出るのではないかと等々、ボランティアの領域を超える問題です。

89号作成に関わったメンバー

大泉定雄 奥田雅子 片寄正史 北畠明子
須藤礼子 須永澄子 野武一郎 宮下正雄